

2004年度中間決算 アナリスト説明会

2004年11月12日

川崎汽船株式会社

A. 2004年度中間期決算概要

(単位:億円)

		当中間期	前中間期	増減額	増減率
売上高	連結	4,136	3,621	515	+14%
	単体	3,320	2,950	370	+13%
営業利益	連結	603	343	260	+76%
	単体	483	282	201	+71%
経常利益	連結	619	304	315	+104%
	単体	500	251	249	+99%
当期純利益	連結	335	159	176	+111%
	単体	272	125	147	+118%
配当	単体	7.5円	5円	+2.5円	+50%
為替レート	平均	¥109.43	¥119.24	¥9.81高	+8.2%
バンカー価格	平均	\$184.24	\$171.06	\$13.18高	+7.7%

公表数値	公表増減(率)
3,970	+166(4.2%)
3,200	+120(3.8%)
560	+43(7.7%)
450	+33(7.3%)
560	+59(10.5%)
450	+50(11.1%)
330	+5(1.5%)
280	8(-2.9%)
7.5円	-
¥109	¥0.43高
\$180	+\$4.24

固定資産減損会計の早期適用による特別損失(単体47億円、連結70億円)

B. 上半期の経営環境

(マクロ経済環境)

- 米国経済：設備投資・消費増加、景気拡大傾向
- 欧州経済：拡大EU域内経済活性化により好調維持
- アジア経済：輸出好調、国内消費伸び、投資旺盛、景気拡大
- 日本経済：企業収益改善、設備投資増加、景気堅調推移

(当社の事業環境)

- コンテナ船：南北航路含め、運賃率修復
- 不定期船・油槽船：高市況享受
- 自動車船：米国・欧州・豪州向け輸送台数堅調推移

C-1. 部門別上半期業績動向 (コンテナ船)

コンテナ船: 前年同期比大幅増益

(積高: 03F上期113万TEU 04F上期125万TEU+10%増)

- 中国出し貨物を中心に好調に荷動き推移
- 全航路積高大幅増 (北米4%、欧州9%、アジア19%)
- 欧州・北米向け運賃率修復
- アジア/エーゲ海航路開設、南北アメリカ東岸新サービス開始、東南豪州航路増便
- 傭船マーケット、燃料油価格上昇、円高基調

C-2. 部門別上半期業績動向(不定期専用船)

不定期専用船:前年同期比大幅増益

- 不定期船:高市況享受、市況は一時的修正後、
全面高の展開。
(稼働延トン6890万トン 6961万トン 微増)
- 自動車船:北米向け輸送台数増加(+53%)
欧州・豪州向け・三国間輸送堅調推移
効率配船による運航コスト削減
(積高77.4万台 99.7万台 29%大幅増加)

C-3. 部門別上半期業績動向(エネルギー-資源輸送)

エネルギー-資源輸送:前年同期比大幅増益

- 液化ガス運搬船:各プロジェクト共順調に進捗
(稼動延トン276万トン 260万トン 6%減)
- 電力炭:新造船投入 輸送量大幅増
市況改善 逆鞘配船解消
(稼動延トン746万トン 760万トン+2%増)
- 油槽船:タンカー市況高位安定推移
(稼動延トン1265万トン 1431万トン+13%増)

C-4. 部門別上半期業績動向(連結子会社)

- 内航・フェリー部門: 売上・利益横ばい
- 航空貨物取扱: 増収・増益
- 物流・港運事業: 貨物扱い増 増収・増益

D. 当上半期連結決算ファクター別増減要因分析

(経常利益: 公表560億円、前年同期304億円 619億円)

<u>損益変動要因</u>	対公表比	対前年同期比
• 為替変動	+10億円	50億円
• バンカー変動	5億円	15億円
• 市況変動	+20億円	+217億円
• 営業規模拡大	+10億円	+ 76億円
• <u>その他・コスト削減</u>	+24億円	+ 87億円
• 合計	+59億円	+ 315億円

E. 2004年度通期見込

(単位:億円)

		上期	第3Q	第4Q	下期	通期	第1Q発表 時公表	増減率	2003年度 通期実績
売上高	連結	4,136	2,020	2,044	4,064	8,200	7,900	3.8%	7,247
	単体	3,320	1,580	1,600	3,180	6,500	6,200	4.8%	5,850
営業利益	連結	603	240	217	457	1,060	980	8.2%	705
	単体	483	180	167	347	830	750	10.7%	551
経常利益	連結	619	220	211	431	1,050	970	8.2%	626
	単体	500	170	170	340	840	750	12.0%	497
当期純利益	連結	335	140	105	245	580	570	1.8%	332
	単体	272	110	88	198	470	460	2.2%	245
配当	単体	7.5円	-円	7.5円	7.5円	15円	+15円	-%	10円
為替レート	平均	¥109	¥105	¥105	¥105	¥107	¥109	2円高	¥113.97
バンカー価格	平均	\$184	\$200	\$200	\$200	\$192	\$185	\$7高	\$170.00

F-1. 部門別下半期業績動向(コンテナ船)

(コンテナ船)

事業環境 : 海外生産シフトに伴うアジア(中国等)から製品輸入拡大
(WTOによる衣料品輸入枠撤廃など)

拡大EU域内経済の活力

燃料費高騰、北米西岸レーバー不足によるコスト増

事業戦略 : 4000個型新造船8隻の投入(PNW、AWスペース拡張)

積高 : 北米・欧州向けは冬場スラック期なるも好調

復航も欧米よりの輸出好調で積高増加

平均運賃 : 季節的要因にて欧州でやや調整局面の可能性

南北航路運賃率は引き続き改善

業績はスラック期のため、上期比では悪化も前年同期比では改善

F-2. 部門別下半期業績動向(不定期専用船)

(撤積船)

事業環境 : 市況堅調 VS 傭船料の大幅増加

原料需要増加 船腹需給逼迫

滞船の長期化 運航稼働率低下

傭船の手当て 逆鞘配船(収益悪化)

上期よりフリー運航船が減少し、収益低下

(自動車船)

事業環境 : 世界の販売台数は好調持続

需要増により供給スペース不足気味

業績は撤積船が当初見込み並、対前年同期比大幅改善

F-3. 部門別下半期業績動向(エネルギー資源輸送)

(LNG)

入渠費、停船の精算方式変更により下期収支は改善
新規プロジェクト船立ち上げも貢献

(電力炭)

国内電力炭需要は引き続き底固く堅調に推移
豪州での滞船状況の悪化が懸念材料

(油槽船)

市況高位安定推移 AFRAMAXとLR2 高市況享受

業績安定推移

G. 通期連結決算ファクター別増減要因分析

(経常利益: 公表970億円、前期626億円 1050億円)

<u>損益変動要因</u>	対公表比	対前期比
• 為替変動	10億円	70億円
• バンカー変動	8億円	48億円
• 市況変動	+75億円	+356億円
• 営業規模拡大	+5億円	+ 75億円
• <u>その他・コスト削減</u>	+18億円	+111億円
• <u>合計</u>	+80億円	+424億円

(参考) 経常利益に対するセンシティブティ(年間)

為替: ±10億円/1 ¥

バンカー価格: ±23億円/10\$

H. コスト削減運動

2004年度目標額:50億円

(単位:億円)

コストセーブ項目	上期	下期	通期
船費・傭船料削減	5	4	9
貨物費削減	13	8	21
サービス改編・合理化効果	3	8	11
関係会社営業関連費用削減	4	8	12
一般管理費削減	2	2	4
機器費・空コン費削減	8	5	13
合計	35	35	70
(部門別内訳)			
コンテナ船事業部門(含む海外)	24	20	44
他事業部門(含む海外)	7	7	14
国内関係会社	4	8	12

I. 投資計画とキャッシュフロー

(単位:億円)

	2003年度 通期実績	2004年度 上期実績	2004年度 通期見込	2004年度 前回見込
投資額(注)	538	435	805	694
船舶関連	426	300	547	561
その他	112	135	269	133
(内、単体)	118	50	85	42
営業キャッシュフロー	786	454	840	830
(減価償却費)	(256)	(122)	(245)	(245)
投資キャッシュフロー	518	215	550	520
フリーキャッシュフロー	268	239	290	310

J. “K”Line Vision2008基本課題の遂行状況

< 基本課題 >

1. 企業基盤の強化による安定収益体制の確立
2. 夢のあるグループ企業文化の創造とKLINEブランド価値の向上
3. コーポレート・ガバナンス体制の強化とリスクマネジメントの整備強化

J-1. < 基本課題1 > 企業基盤の強化による安定収益体制の確立

戦略分野・地域への積極的取組み

(鉄鋼原料)

- 江蘇沙鋼集団有限公司・新日本製鐵・ILVA社との長期輸送契約締結

(LNG)

- J&S Cheniere社と10年間の定期傭船契約

(コンテナ)

- チェコ・フィリピンにおける自営代理店設立
- I.T.Sグループはタコマ港湾局と新ターミナルへの移転・拡張で基本合意

(物流事業)

- K Line (Thailand) Ltd.物流センターオペレーションを開始
- 川崎航空サービス：上海に物流会社新設、杭州に事務所開設

J-2. < 基本課題1 > 企業基盤の強化による安定収益体制の確立

コスト構造改革運動の遺伝子としての定着化

- 04年度コスト削減目標50億円を上回る70億円削減見込

輸送技術の開発・運航技術水準の向上

- 改正SOLAS条約およびISPSコードへの取組み

財務体質強化と安定配当体制の確立

- 次頁の通り、当初見込みを大幅に上回る進捗状況

J-3. Vision2008数值目標(連結ベース)

	2003年度 通期実績	2004年度 上期実績	2004年度 通期見込み	2004年度 前回見込み	2008年度 最終目標値
売上高	7247億円	4136億円	8200億円	7900億円	8700億円
経常利益	626億円	619億円	1050億円	970億円	870億円
株主資本	1210億円	1552億円	1750億円	1720億円	3400億円
有利子負債残高	2818億円	2616億円	2600億円	2600億円	2600億円
R O E	32.7%	48.6%	39%	39%	17%
R O A	11.6%	21.6%	19%	18%	11%
株主資本比率	21.6%	26.3%	29%	30%	43%
営業CF	786億円	454億円	840億円	830億円	550億円
フリーCF	268億円	239億円	290億円	310億円	100億円
D E R 比率	233%	169%	149%	151%	77%

J-4. <基本課題2> 企業文化とブランド価値向上

<基本課題3> コーポレート・ガバナンスとリスクマネジメントの整備強化

企業文化とブランド価値向上

- 人事諸制度の継続的見直しに着手
- グループを挙げてのブランド価値向上への取組み展開

コーポレート・ガバナンスとリスクマネジメントの整備強化

- 安全運航、災害対策、コンプライアンス・経営リスク管理の各委員会が本格稼働
- グループ内部統制の自己チェックを行う内部監査室発足
- コンプライアンスマニュアル刊行